「ママから教えてもらったこと」

南比都佐小学校　6年　藤澤（ふじさわ）　夢音（ゆのん）

私は、社会を明るくするために、みんながやさしさと思いやりの意識を持つことが大切であると考えます。一人一人が思いやりを持ち合える良い社会にしていくために、「やさしさ」について考えることにしました。やさしさとは、受け取る相手も自分も良い気持ちになる行動だと思います。だれかが困っていたら声をかける行動で、相手も自分も嬉しい気持ちになります。私は、ある出来事をきっかけに、やさしさの大切さを改めて感じました。

その出来事は算数の授業中、プリントが配られて問題のやり方がわからなかった時のことです。私が問題のやり方がわからなかったので、近くの友達が問題のやり方をわかりやすく教えてくれました。そして「またわからない時は言ってね。」と、言ってくれました。困った様子に気が付

いて、分かりやすく教えてくれた行動にとても助けられてうれしい気持ちになりました。

さらに、かけてくれた言葉でさらに嬉しくなりました。次は私が教えられるようにもっと勉強を頑張りたいと思いました。そして、困っている人がいたら、自分から気付いて声をかけられる勇気を持とうと思いました。

私は小さなころから母に

「人から受け取ったやさしさは、形を変えてでも人に返せる人になりなさい。」

と言われてきました。助けてもらった人に返すべきなのではないかとずっと思っていました。だけど、最近母に言われた言葉の意味が分かるようになった気がします。

一人でプリントに取り組んでも、いつまでも分からず悩んでいたと思います。先生に教えてもらうのを待つだけでなく、クラス全員で協力しながら取り組めることで分かる人が困っている人に教える、そして教えてもらって理解できた内容をさらに友達に伝えること

で、学習の理解も深まります。そして、分からないことを聞きあえる、そして困っている人に気づき助け合える雰囲気ができると良いなと思います。そんなやさしさが伝染しあえるようなクラスでありたいと考えます。

それが、母に教えられた言葉の意味かもしれません。

そして、

「またわからない時は言ってね。」

と言ってもらった一言が、本当にうれしくて、私も困っている人がいたら、そのような言葉がけができる人でありがいと思いました。

実際に、困っている人がいたら自分から声をかけ、助けることができる行動力を持てるようになりました。さりげない行動でも、「ありがとう。」と言ってもらえるととてもうれしい気持ちになります。やさしさや思いやりのある行動には、相手も自分も良い気持ちになる魔法があるのだと感じました。

また、最近SNSで顔の見えない相手に対

する誹謗中傷で人を傷つけるというニュース
をよく目にします。顔が見えないから何を言
っても良いわけではないと思います。顔が見
えないからこそ、言葉の選び方、相手を尊重
しあえる気持ちを持ち合うことが大切だと思
います。

やさしさや思いやりを持った行動は、大き
なことをするだけではありません。落ちたも
のを拾ってあげる。元気のない友達に「大丈
夫？」と言葉をかけること。一つ一つは大き
なことでなくても、その一つで助けられるこ
とはたくさんあります。その一つを積み重ね
ることが、大きなやさしさになると思ってい
ます。やさしさや思いやりのある言動は人を
嬉しい気持ちにさせる魔法があると思うので、
そんな行動を積み重ねて行きたいです。人と
の関わりの中で、やさしさの連鎖でが繋
がると明るい社会になると思います。

私はこれから困っている人を見かけたら、
自分から行動できるようになりたいです。ま

20 × 20

ずは、学校生活の中で困っている人がいたら自分に何ができるかを考え、助けられる人でありたいです。そんな私の行動で、相手も嬉しい気持ちになってくれると思います。その人も、違う形で思いやりある行動をしてくれる。そんな連鎖が続いて、良い社会になっていくと良いなと思います。